

浜松市立横山小学校 氏名 米山 直希

## 1 テーマ

小規模学級における社会性の育て方について（ICTの有効活用）

## 2 テーマ設定の理由または、課題

小規模校であると、クラスの仲間は慣れ合いの関係になりやすい。そのような環境で育つと中学や高校に進学して、知らない人の集団の中で関係を築く際に困難さが生じる恐れがある。だからこそ、小規模校教育のなかでは意識して社会性を育てる必要がある。

限られた人数の中で社会性を育むには、他校との交流が有効である。しかしコロナ禍の中では、他校の児童と交流することは難しい。そこでICTを活用して社会性を育むための方策を模索していきたいと考えている。

※社会性…ここでいう社会性とは、「他人との関係や集団生活をうまくやっていく素質や能力」のことある。（“コトバンク 社会性” より引用）

## 3 実践内容

・ICTの活用を通して社会性を育む方策

【合同宿泊活動の事前打合せでICTを用いる。】

横山小は、5年生になると光明小と合同宿泊活動を行う。通常であれば1年生から毎年、対面での交流があった上での宿泊活動になる。しかし、今年の5年生はコロナ禍のあおりを受けて、対面での交流がほとんど行われていない状態で、いきなりの宿泊活動となった。

相手は数十人いるが、こちらは2人しかいない。面識のほとんどない中でいきなり泊をとまなう活動を行うと、子供にとって大きな負担となり、他人とうまくやっていくどころではなくなってしまう。社会性を育む前に心理的負担を取り除く必要がある。

そこで当日の子供たちの負担を減らすために、ICTを使って顔ならしを行うことにした。活動内容は、同じグループの児童と自己紹介を行い、その後に以心伝心ゲームなどの簡単なゲームを行った。時間は15分ほどである。



#### 4 成果と課題

- ・ICTの活用を通して社会性を育む方策

##### 【成果】

「宿泊活動に行く前に同じグループの子の顔がわかってよかった。」「ゲームを通じて相手がどんな雰囲気なのかがつかめた。」という感想があったことから、ICTを活用して事前に顔合わせを行うことで、ある程度の心理的負担は減らすことができたと感じている。(サンプル数が少ないので結論付けはしません。)

また、ICTが直接社会性を育むというより、対面での活動を円滑に進めるために有効であることもわかった。つまり、ICTそのものが社会性の育成に積極的に寄与はしないが、実際対面であったときに社会性を発揮する下地を作ることができる。

##### 【課題】

ICTによる事前打合せは、児童の負担軽減や自信獲得につながる一方、集団に全く慣れていない子にとってはかえって負担を増幅させ、自信を喪失させることにもつながってしまうこともある。今回は単発での交流となったが、すべての児童がICTの活用によって社会性を育むことにつなげるには、長い期間をかけて継続的に行うことが必要である。

しかし、そのような時間がはたして確保できるのだろうか。さらに、学校をまたいで活動する以上、ICT交流のための事前の準備や計画の時間も必要になってしまう。

##### 【提案】

ICTを使用する利点はその手軽さである、利点を最大限に活用するためには、ICT交流のハードルを下げる必要がある。そのために学校間の協力体制を確立させておく必要がある。